

社団法人  
中小企業診断協会 奈良支部



診断なら 平成24年新年号

— 目次 —

ご挨拶 ～新組織への移行に向けて～	1
公益法人改革に伴う一般社団法人への移行について	2
トピックス	
平成23年度 理論政策更新研修開催報告	3
平成23年度 農商工連携実践塾開催報告	4
平成23年度 マスター調査事業報告	5
寄稿	
ホームページの曲がり角、ソフトウェア技術者の真価が問われる	6
研究会便り	
活性化研究会	7
新入会員紹介	8～10
支部行事開催予定	11
編集後記	11

ご挨拶  
～新組織への移行に向けて～

支部長 石川史雄

WEB形式での「診断なら」の復刊版2号をお届けします。本会報で支部の動きが一目で分かるようになり、会員間の情報交流になればと願っています。この間全員参加型の支部づくりのため、会員MLや会報、HPを用いて皆様に支部の事業の案内や、研究会活動状況、農商工連携プロジェクトの動きをお伝えしてきました。今後とも情報交換の場として活用下さるようお願いします。

ご案内のように公益法人制度改革により、社団法人中小企業診断協会奈良支部は、平成24年3月に廃止となり、25年の歴史を閉じることになります。4月以降は新組織による事業運営を図ることになります。

支部発足時は「何もしない支部」としてスタートし、HPも全国で最後に開設するような有様だったのですが、ここ数年奈良支部は大きく変貌してきました。これまでは、支部としての発信力も乏しく、診断士の活動状況も目立ったものではありませんでした。この間、マスター調査の発表会や実務従事事業などによる診断業務の県内での浸透、奈良中央信用金庫様や奈良県中小企業団体中央会様からの受託事業などにより、県内において徐々に存在感を示すようになり、会員数や受託事業の大幅な増加などにつながってきました。会員の皆様の支部事業への関わりも増えてきました。診断業務については「地元精通した」診断士へと訴え続け、「依頼があれば診断士を派遣する」受身の支部から「診断士が活動できる事業の開発をする」受託開発をする支部への転換を図ってきました。

新しい組織においても、会員の皆様がそれぞれの関わりの中で診断士として活動され、奈良の診断士の会に所属してよかったと思って頂ける会の運営を図りたいと存じます。

事業運営面では、これまでの登録更新向けサービス事業に加えて、新しい事業にも取り組んで行きたいと考えますが、財政面ではこれまでの本部からの交付金制度が廃止となり、独自に財政の確立を図らねばならなくなっており、厳しい状況が予測されます。どのような運営体制がよいのか皆様のお声をお聞かせ願ひ、決定して行きたいと思ひます。

新しい組織運営に、皆様の力をお寄せくださるようお願いします。

## 公益法人改革に伴う一般社団法人への移行について

理事 藤井 謙昌

公益法人改革により全国の各支部は本部から独立し、非営利の一般社団法人として法人化するか、任意団体として運営していくかの選択が求められています。奈良支部では受託事業を確保していくため一般社団法人を選択していくのが最善の方法であるとの結論を出し、23年6月に開催した通常総会において理事会を中心としたプロジェクトチームを立ち上げ準備を進めていくことの決定をしています。23年8月に立ち上げた「法人化検討委員会」においては主に定款（案）の検討を行うとともに、理事会では法人化により必要となる対応策を協議してきました。24年4月には法人の名称を「奈良県中小企業診断士会」とし一般社団法人として法人登記をすることにしていますが、本稿では一般社団法人へ移行することでどのようなことが変わるのかを中心に解説します。

### 1. 現役員は設立総会まで支部運営に携わる

現役員全員が設立時理事に就任し法人の登記申請をします。任期は24年5月に開催する設立総会までで、その間は現役員が支部運営に携わり、法人の新役員は設立総会で選任します。なお、奈良支部の財産は全て新法人に移行します。

### 2. 本部は全国の支部を連合体組織として束ねていく

全国の支部はこれまで本部の下部組織（本店と支店のような関係）という位置づけでしたが、各支部が一般社団法人等として独立していくと別法人になるため、本部は全国の支部を連合体組織として束ねていきます。

### 3. 会費は変更しない（据え置く）方針である

奈良支部の会費は現在3万8千円（本部会費3万3千円・支部会費5千円）ですが、法人化移行しても当支部ではこの金額は変更しない方針です。法人化により本部上納金が1万円必要になり、2万8千円の支部会費で支部運営をしていくこととなります。

### 4. 理論政策更新研修、実務従事、プロコン塾は従来どおり実施

理論政策更新研修は本部と業務受託契約を交わし支部で実施していきます。実務従事やプロコン塾は今後本部が関与しないこととなりますが、当支部では引き続き実施していきたいと考えています。

### 5. 決算内容はホームページで公表する

法人化移行すると普通法人としての納税義務が発生し、年度終了後に法人税の申告をしなければなりません。また、法人法では決算内容を公告しなければならないと定められているため、支部のホームページを活用して毎年決算内容を公表していきます。

### 6. 自己責任を原則とした運営が求められる

これまでは本部会費を本部に納める代わりに、支部収入は本部からの助成金を中心となっていました。しかしこれからは支部の予算で各種事業や会員サービスを実施していくことになるため、自己責任を原則とした支部運営が求められることとなります。従前より全員参加型の支部運営に心がけて参りましたが、法人化移行により従来にもまして各会員の意見を支部運営に反映させていく必要があり、引き続き会員の皆様方の支部運営への積極的な関与をお願いいたします

## 平成 23 年度理論研修開催報告

副支部長 堀越 一郎

(社)中小企業診断協会奈良支部主催の理論政策更新研修を平成 23 年 9 月 3 日(土)に大和信用金庫八木支店ビル 3 階の大会議室で開催しました。

今回の更新研修の内容は以下の三講義で、いずれも診断士として興味深いテーマについて講義が展開されました。

### 第一講 新しい中小企業施策 ～奈良県の商業施策について～

講師：奈良県産業・雇用振興部商業振興課主幹 榊井 博 氏

### 第二講 I T を活用した経営戦略 ～経営戦略を実現するための I T 活用法～

講師：e & i 経営研究所代表 中小企業診断士 高野 浄 氏

### 第三講 中小企業の海外展開支援 ～中国市場販路拡大ニーズへの対応～

講師：南都銀行バリュー開発部グループ長 中南 知也氏

第一講では県産業・雇用振興部の榊井主幹から遷都 1300 年祭後の県内消費拡大策として、「プレミアム商品券発行事業」を始め「まちなかポイントカードシステム」や「商店街次世代リーダー育成事業」などが紹介され、様々な施策を通じて県が商業振興に向けて取り組んでいる内容が紹介されました。

第二講では、経営戦略の目標達成には I T 活用がいかに効果的であるか、を講師が実際に指導した企業の豊富な実例をもとに、わかりやすく説明されました。受講者からは、講義で示された I T 活用方法は新鮮で大変参考になったとの声が聞かれました。

第三講では、講師が上海に駐在されていた経験をもとに、中小企業が海外進出を考える際の注意点や、中国でのビジネス展開する際の商慣行などが紹介され、中小企業の海外展開をサポートする診断士にとっては非常に有意義な講義でした。

受講者数は 85 名とこれまで奈良支部が主催した理論政策研修では最多の受講者数となり、会場は熱気にあふれていました。



【研修当日の風景（撮影：松山）】

## 平成 23 年度農商工連携実践塾開催報告

副支部長 森 昭彦

中小企業診断協会 奈良支部の初めての大型受託事業である「農商工連携実践塾」が、10月から12月に掛けて開催され、大きな盛り上がりの内に終了しました。まだ事務処理は完了していませんが、多くの方の支援を得られたことで成功を取めることができたものと、ご協力を頂いた皆様に大きく感謝致しております。ありがとうございました。

今年度の農商工連携人材育成事業は61団体が採択され、全国各地で順次開催されています。奈良県内でも3つの団体が事業を受託する中、当支部では以下の3点に特徴を置いて事業を進めました。

- ①受講後の活動や認定取得につながるように、実践的な内容を盛り込むこと。
- ②土・日に開催し、平日が多忙な受講者に参加する機会を提供すること。
- ③1日の受講時間を長く取ることによって、短期間に集中して学んで頂くこと。

①の実践的な内容では「現実感を高めたロールプレイング演習」を目玉とし、日を重ねるに連れて、少しずつ模擬演習から受講者間の連携事業の検討に切り換えていきました。

②の「土・日開催」は、それまで平日開催の機関が多かったことから、機会を逃してきた受講者が多いのではないかと考えて決めました。

③の「短期間集中」には、一気に学んで頂き、少しでも早く現実の連携事業に結びつけて頂きたいという思いを込めました。

「1日6時間を越える講義」、「8週間連続の開催」、「1泊2日の宿泊型研修を含めた3箇所での実地研修」というハードスケジュールでしたので、無理が過ぎるのではないかと心配する向きもありました。

しかし、日を重ねるに連れて交流が盛り上がり、23名の受講者の内、20名が修了するという好結果を得ることができました。その後も、受講者間の新たな連携が進んでおり、今後の活動の更なる盛り上がりにも期待がもたれています。

当支部では、引き続き受講者のフォローアップに取り組んでいくのはもちろんのこと、奈良県の活性化に広く寄与していきたいと考えております。皆様の変わりなきご支援、並びに、ご指導・ご鞭撻を宜しくお願い致します。

## 平成 23 年度 マスター調査事業報告

～「中国人観光客奈良インバウンドに向けた調査事業」の概略～

理事 徳南 毅一

### 1. 調査の目的

従来観光旅行といえば、日本人の国内及び海外への旅行を意味し、海外へ行く日本人に比べて、日本を訪れる外国人が少ないという状態が続いていました。しかし、個人の消費需要の落込みにより、政府は外国人観光客誘致に向けての「インバウンド」策を推進しています。観光は奈良の一大産業であり、県も各市も積極的に外国人観光客インバウンドに取り組んでおられます。中でも市場規模が大きく今後の成長が見込める中国は重要なターゲットとなっています。観光は、幅広い産業分野におきまして経済効果をもたらします。当協会におきましては、上記の状況を踏まえ、「中国人観光客の奈良インバウンド」に向けての調査を実施しました。

### 2. 調査研究実施要領

調査委員は奈良支部の会員 6 名（石川史雄、植田義人、梅屋則夫、西康弘、牧野清貴の各氏と徳南毅一）及び特別委員として参加いただいた、野口隆氏（奈良産業大学教授）、晏明偉氏を加えた 8 名です。

調査の方法として、中国人へのアンケートを実施し、次に有識者よりの意見のヒアリングを行い、これらの調査の結果を参考として提言にまとめました。調査研究にあたり、多くの皆様方にご指導とご支援を賜りましたが、中でも奈良産業大学の関係皆様に多大な協力を頂きました。野口教授には報告書の執筆に加え、大学の中国人留学生の皆様よりのアンケートやご意見のとりまとめを頂きました。

日本の企業にお勤めの晏明偉氏には、中国人としての顧客の立場からのアドバイスや翻訳の支援を受けました。氏は、中国戦国時代の斉の名宰相、晏嬰の子孫ですが正に、ご先祖の名に恥じず我々の大軍師的存在でした。

### 3. 報告書の概要

調査の結果、中国人は奈良を知らないということが明らかになりました。PRが要せられますが、訴え方が大切です。奈良の持つ観光資源が中国人に受け入れられるか？歴史の古さなら中国に敵いません。理念となるキーワードは日中交流です。そして戦略として観光資源の付加価値化が必要です。「そのまんま奈良」でも良いかも分りませんが、これでは「奈良ステイ」につながりません。

以上のことを踏まえ、報告書では以下の重点 5 項目に絞って提言いたしました。

- ①中国人市場開発の基本戦略の策定
- ②個人リピーター客のターゲット
- ③集客拠点による売りの重点化
- ④大阪との連携による地域誘致
- ⑤奈良誘致のための地域整備

1月26日に報告会を実施いたします。多くの方の参加を頂くことを願っています。この調査事業が奈良の活性化の一助になりますれば幸いに存じます。

## 【寄稿】ホームページの曲がり角、ソフトウェア技術者の真価が問われる

支部会員 渡辺 武久

インターネットの発展に伴いホームページ（HP）の機能は多様化し、利用する端末も携帯電話やスマートフォンが主流、一般の人々がなげない道具として使う時代となっている。HPに曲がり角が来た。更新もされず放置されたままのHPは見向きもされない。しかしそんなHPでも開設当初はそれなりに華々しい役割を果たしたはずである。過去と現在でこんな落差がなぜ生じたか。HPを例にソフトウェア技術者（以後、技術者という）の真価が問われる時代の到来を論じてみたい。自己反省もふまえ。

情報システムを活用するのはエンドユーザと呼ばれる利用者である。利用者のニーズを情報システムとして実現するのは技術者である。技術者は利用者のニーズを待っていれば仕事できた。このような仕事のしかたは業界の悪弊として根付いてしまった。HPの陳腐化もこのような悪癖が根底にあると筆者は思う。目の前のニーズを実現するだけなら、それに合うツールをさがせばよく技術者はいらぬ。頭脳労働を提供する「人月払い」の日雇い作業員で十分である。しかしニーズ多様化の著しい昨今、このような仕事は通用しなくなってきた。ほんものの技術者は「ものさがし」でなく、「もの（商品）づくり」を目指さなければならない。筆者自身の過去をふりかえり、反省しきりである。

情報システムの世界にソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）という怪物が出現した。SNSは多くの人々が共通の話題でコミュニケーションをする会員制のWebサイトで、巨大なHPといってもよい。技術的にはクラウドコンピューティングの成功事例ともいえる。日本ではmixiが代表例である。世界では米国発のフェイスブックの伸びが注目をあびている。SNSの特長は、利用する個人が特定できること、情報発信が超簡便であることにある。これらの特長は従来のHPという概念を一変した。多様化したニーズに真剣に取り組む、ほんものの技術者の仕事の成果である。

奈良支部のHPは5年以上前に開設され、それなりの役割を果たしてきたが、陳腐化が著しい。その対策としてHP研究会を立ち上げる計画がすすんでいる。会員が自分でタイムリーに情報提供ができ、真に利用者のためになるHPをめざしている。そんなニーズに真剣に取り組む研究会としたい。支部会員の多くの皆様の協力をお願いします。

## 活性化研究会について

理事 北川 裕康

平成 17 年に発足した活性化研究会も、早いもので 8 年目を迎えることとなりました。当研究会は原則として、奇数月の第 2 または第 3 土曜の午後に、支部内外の講師をお招きして、ご講演いただくという形式の定例会を開催しています。毎回、定例会の後には、有志による懇親会も実施しています。

平成 23 年 3 月以降の定例会の講師と講演のテーマは次のとおりです。

[平成 23 年 3 月例会] 3 月 19 日 (土) 開催

講師 : 兵庫県介護支援専門員協会・尼崎支部長 西川 充 氏

テーマ : 介護ビジネスの現状と今後 ～ 介護事業のコンサルのポイント ～

[平成 23 年 5 月例会] 5 月 14 日 (土) 開催

講師 : 中小企業診断士/キャリア開発コンサルタントアドバイザー 樋口 保隆 氏

テーマ : 原子力発電と東京電力福島第一原発の事故について

[平成 23 年 7 月例会] 7 月 9 日 (土) 開催

講師 : 奈良支部会員 西 康弘 氏

テーマ : 中国人観光客奈良インバウンドに向けての調査研究の中間報告  
～ 中国人の奈良観光についてのアンケート調査結果 ～

[平成 23 年 11 月例会] 11 月 13 日 (日) 開催

講師 : 株式会社 FBC まちづくり研究所代表取締役所長 出口 巳幸 氏

テーマ : 商店街の現状 ～ 奈良県の商店街を中心に ～

[平成 24 年 1 月例会] 1 月 14 日 (土) 開催

講師 : 奈良支部会員 牧野 清貴 氏

テーマ : 23 年度マスター調査 ～ 中国人観光客奈良インバウンドに向けた提案 ～


なお、当研究会についての問い合わせは、北川 ([mckenzie@kcn.ne.jp](mailto:mckenzie@kcn.ne.jp)) まで、  
お願いいたします。



◇◆◇ 新入会員紹介 ◇◆◇

平成 23 年度（4 月 1 日以降）入会の皆さま 【50 音順】

ふりがな		いずたに よういち
名前		泉谷 陽一
連絡先	Tell	0742-51-3427
	Fax	0742-51-3427
	Mail	<a href="mailto:mb86mh23ml@kcn.jp">mb86mh23ml@kcn.jp</a>
勤務先		シャープ株式会社
登録年度		平成 12 年
転入の場合は前支部名		大阪支部
		自然が豊富で歴史の重みある奈良の発展に少しでも貢献できたら本望です。現在は、企業内診断士ですが、諸先輩方の活躍を常によき刺激とし、日々研鑽していく所存です。ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。
趣味		旅行、水泳、読書

ふりがな		おかもと ともひろ
名前		岡本 友宏
連絡先	Tell	080-3112-1914
	Mail	<a href="mailto:tomo-z0825@live.jp">tomo-z0825@live.jp</a>
勤務先		日本政策金融公庫 奈良支店 国民生活事業
登録年度		平成 22 年
		まだまだヒヨコ診断士ですが、この資格が仕事を通じて企業の皆様に役立つよう一歩ずつ成長していきたいと思ひます。またこの支部を通じても人の輪を広げれば幸いです。よろしくお願ひします。
趣味		映画鑑賞 (今年は自転車のロードバイク開始が目標)

ふりがな	おくだ はるひこ
名前	奥田 晴彦
勤務先	前田産業株式会社
登録年度	平成7年
転入の場合は前支部名	大阪支部
	人生も後半にさしかかり、地元奈良のために何かお役にたちたいという思いが強くなってまいりました。農業・食品分野を中心に活動していきたいと考えております。よろしく願いいたします。
趣味	手打ち蕎麦打ち

ふりがな	さえきまこと	
名前	佐伯 眞	
連絡先	Tell	06-7711-1897
	Fax	072-621-6340
	Mail	<a href="mailto:saeki@fssp.me">saeki@fssp.me</a>
勤務先	合同会社 FS ソリューションパートナーズ	
登録年度	平成6年	
	(株)船井総研でコンサルタントを13年経験し、コンサルタント会社を立ち上げました。前職で奈良県天理市企業役員をしていた縁で、今後ずっと奈良を主戦場としていく決意をして支部に入会しました。農関連を中心に、小売卸メーカー等に販路拡大、商品開発で売上利益アップに貢献していく所存です。	
特技	ダイエット(最近25kg 減量成功!)	
趣味	大型バイクです。	

ふりがな	ちかだ まさよし	
お名前	近田 昌義	
連絡先	Tell	0742-47-1299
	Fax	0742-47-1299
	Mail	<a href="mailto:mxg03246@nifty.ne.jp">mxg03246@nifty.ne.jp</a>
勤務先	NTT 西日本	
登録年度	平成 20 年	
転入の場合は前支部名	大阪支部	
抱負	現在は、直接診断士の活動に関わる機会のない企業内診断士です。今は、プロコン塾などで機会を見つけて少しずつ腕を磨いていければと考えています。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。	
特技	IT(ソフト会社で12年間物流システムの開発をしていました。)	
趣味	スノーボード、ドライブ、ゴルフ、ヨガ	

ふりがな	わたなべ じゅん	
名前	渡辺 淳	
連絡先	Tell	0742-81-8120
	Fax	0742-81-8130
	Mail	<a href="mailto:jun.watanabe@blueorchid.co.jp">jun.watanabe@blueorchid.co.jp</a>
勤務先	株式会社ブルーオーキッドコンサルティング	
登録年度	平成 13 年	
転入の場合は前支部名	大阪支部	
	2011年4月から奈良を拠点に独立、起業しました。自らの業務を通して、奈良の活性化に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。	
特技	バスケットボール	
趣味	映画鑑賞・読書・ランニング・まちあるき	

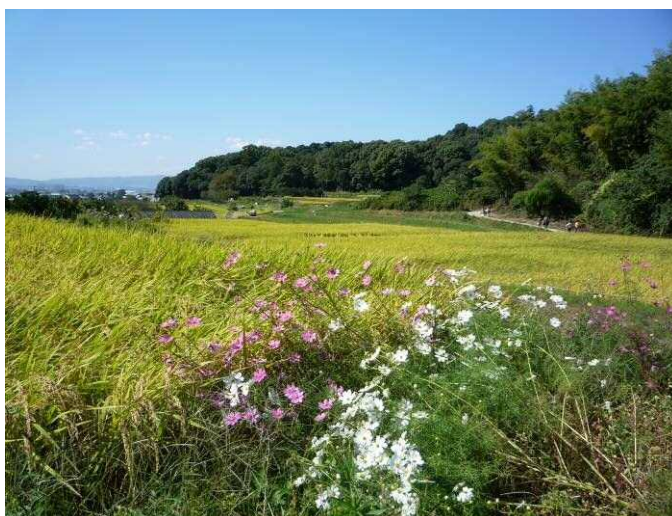
## ◆◆◆ 支部行事開催予定 ◆◆◆

- 1月26日（木） 平成23年度マスター調査事業報告会  
～中国人観光客奈良インバウンドによる奈良の活性化を目指して
- 1月29日（日） 平成23年度農商工連携実践塾反省会&交流会
- 2月 8日（水） 日本政策金融公庫第2回交流会
- 2月10日（金） 臨時総会&新春互礼会
- 2月中旬 支部会員向けアンケートの実施（今後の支部運営について）
- 4月16日（月） 診友会ゴルフコンペ
- 5月 新法人設立総会

### 【編集後記】

- ▽ 電子メディア版としての支部会報「診断なら」の復刊版2号を、平成24年新年号として約1年ぶりに発刊することができました。会報作成にあたって、原稿をご提供いただいた皆さまにお礼申し上げます。
- ▽ 今回より新入会員の自己紹介コーナーを新設しました。6名の方々から情報提供いただきました。皆さん全員がそれぞれの決意を胸に入会されており、会報編集者の私としましても心強い限りです。皆さまの奈良支部での活躍をお祈りしております。
- ▽ 「診断なら」は、電子メディア版として定期的に発行していきたいと考えています。今後とも、トピックス・研究会活動についての情報提供や寄稿など、支部会員の皆さまのご協力を宜しくお願いいたします。

（松山）



【豊穰の山の辺の道（撮影：松山）】